

スポーツの価値の導出

ー 地域衰退の課題解決とスポーツ ー



DZ21212

田振 太陽

Keywords

コミュニティ形成 地域活性化 スポーツ
転出 晩婚化 未婚化 廃校

1. はじめに

私は今までスポーツを「みる・する」楽しさを人より多く味わってきた自負がある。スポーツの魅力を感覚的に知っている。また、スポーツの価値を高めたいという気持ちをぼんやりと持っている。しかし、スポーツに関心がない人からすれば楽しさだけを力説してもスポーツの価値はわからないだろう。そこで私はそういった人々とスポーツとの関わり方について考えてみたい。

2. 研究背景

2.1 スポーツの歴史

スポーツの役割は時代によって異なり、先史時代では狩猟のトレーニングや祭祀儀式が今で言うスポーツであった。近代になると「見るスポーツ」と「するスポーツ」という明確な区分がなされ、スポーツは健全な精神を養う教育的な意味をもち始めた。現代ではスポーツは大衆化し、国の経済に関わる一つの産業となっている。心身の健康や教育などスポーツの役割は多岐にわたっている今日である。

表1 スポーツの役割と変遷

(岸川善光. スポーツビジネス特論. 2012より作成)

時代区分	スポーツの役割
先史時代	言語的意味合い：感情表現としてのダンス 労働的意味合い：狩猟のためのトレーニング 宗教的意味合い：祭祀儀式 娯楽的意味合い：余暇を過ごすための遊び
古代	政治的意味合い：円形闘技場 宗教的意味合い：王の神聖を見せるため 娯楽的意味合い：観客（「みるスポーツ」）
古代オリンピック	軍事的意味合い：戦争能力の向上 宗教的意味合い：ゼウスに捧げる祭典 地方との交易・情報交換の場 名誉のための大会
中世	娯楽的意味合い：身分別の「するスポーツ」
近代	娯楽的意味合い：「見るスポーツ」・「するスポーツ」 教育的意味合い：スポーツによる健全な精神
近代オリンピック	政治的意味合い：プロパガンダ 国際交流 地域振興、発展
現代	娯楽的意味合い：スポーツの大衆化 経済的意味合い：GDPの1.9%を占める産業に成長 教育的意味合い：子どもの健康、情操教育 国民の健康のためのスポーツ

2.2. コミュニケーションツールとしてのスポーツ

スポーツには多様な価値があり、「する・みる」楽しさを味わえる価値だけでなく、子供たちにとっての成功体験や全世代にとっての心身の健康を得ることができる価値がある。なかでもコミュニケーションツールとして、初対面の人と通じ合える価値が大いにあると私は思う。スポーツには明確なルールがある。言葉が通じなくても、過去に親交がなくても、全プレイヤーが同じ目標に向かって動くため、日常会話よりも自然に信頼関係が築かれる。

3. 研究目的

スポーツがもつコミュニケーションツールとしての役割がコミュニティ形成へとつながるといふ仮説より、まちの活性化を図ることができる場の提案を行う。

4. 敷地概要

本計画では、房総半島の中央部に位置する千葉県君津市のCAMPiece君津を対象とする。この対象地は現在旧亀山中学校と隣接する旧坂畑小学校の2校を利用した廃校キャンプ場である。

4.1 君津市

君津市の課題として、転出、晩婚化・未婚化の進行が主に挙げられる。理由として子育て環境や雇用機会、地域内外の交流（コミュニティ形成）の場が不足している。

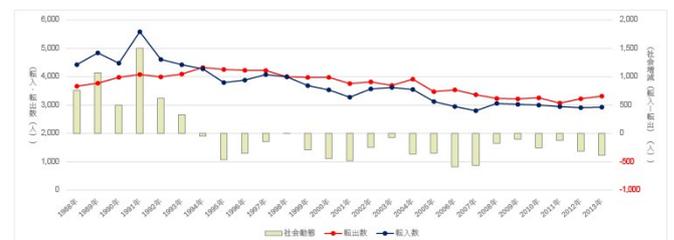


図1 君津市社会増減の推移
(2016年、君津市人口ビジョンより作成)

転入・転出数は、1994年(平成6年)以降、転出超過で推移しており、2013年(平成25年)では、転入が2,926人に対

して、転出が3,312人となっており、386人の「転出超過」となっている。周辺市と比較すると、君津市は周辺市より、転出超過の傾向が大きくなっており、今後、転出者の抑制と転入者の増加施策により社会増への早期転換を図ることが必要になる。

4.2 対象敷地周辺



図4 CAMPiece君津周辺マップ
(Google earthより作成)

2校は2020年に閉校したが、敷地周辺において数少ない運動環境であり、他にスポーツ施設や公園などはない。さらに地域住民同士が大勢で集まり交流できる施設も、地域外の人を訪れて地域の人と触れ合う場もないというのが現状である。私が現地訪問した際、子供たちが学校の体育館で遊んでいるのは見かけたが、街中では見かけることはなかった。2校の卒業生で当施設の運営に携わっている方にインタビューをしたのだが、その方は「この場所が子供たちみんなで遊べる貴重な場所である」と言っていた。現地調査より、CAMPiece君津という場所が地域の子供たちにとって体を動かせる環境として大いに価値がある場所であるとわかる。

4.3 廃校活用

学校という場所は机上教育の場だけを指すのではない。グラウンドや体育館、プールなどの運動施設が開校当初から設けられ、子供はもちろん、大人もイベント時には利用することもある。そのため地域住民から学校は運動をする場として潜在的に認識されている。そこにコミュニティ形成をもたらすスポーツ施設を新たにつくことで、学校の機能の在り方を継承しながら、地域活性化につながる要素が加わった新たなまちの拠点ができると私は考える。

5. 提案

5.1 設計趣旨

スポーツを「する・応援する・眺める」3つの立場の人たちが同じ時間と空間を共有するように空間を構成する。各々異なる目的または近い目的で施設を訪れた人たちが共有した時間と空間をきっかけに交流するという仕組みをつくる。第一に初出会いから始まり、半日常的に施設の利用を利用していくなかで、交流を深くしていき、緩いコミュニティが形成されていく。第二にその緩いコミュニティがスポーツの場を利用することを通じてスポーツコミュニティ(クラブ団体)のような結びつきの強いコミュニティが形成されていく。

5.2 設計手法

一般的なスタジアムにみられる楕円型平面とすり鉢型の断面を軸に各空間を配置する。各スポーツ施設はする場・みる場のレベル差をつけて、スポーツ目的もそうでない人も利用し、物理的交わりが生じる構成とする。



図5 断面手法

5.3 プログラム

敷地面積：26,897㎡

建築面積：891㎡(中学校校舎)、1111㎡(新体育館)

延床面積：2501㎡(中学校校舎)、1230㎡(新体育館)

6. 終わりに

現代ではスポーツが大きな産業となっているが、本質的にはひととひとのつながりを生むという可視化されない価値をもち、それがまちの活性化につながると私は考えている。

参考文献

- 1) 君津市人口ビジョン(平成28年3月策定)
<https://www.city.kimitsu.lg.jp/uploaded/attachment/251.pdf>
- 2) 君津市「結婚・出産・子育てに関する意識及び君津市の満足度等の調査」調査結果報告書
<https://www.city.kimitsu.lg.jp/uploaded/attachment/253.pdf>
- 3) 岸川善光.スポーツビジネス特論.学分社.2012年.304ページ

スポーツがもつ価値の導出

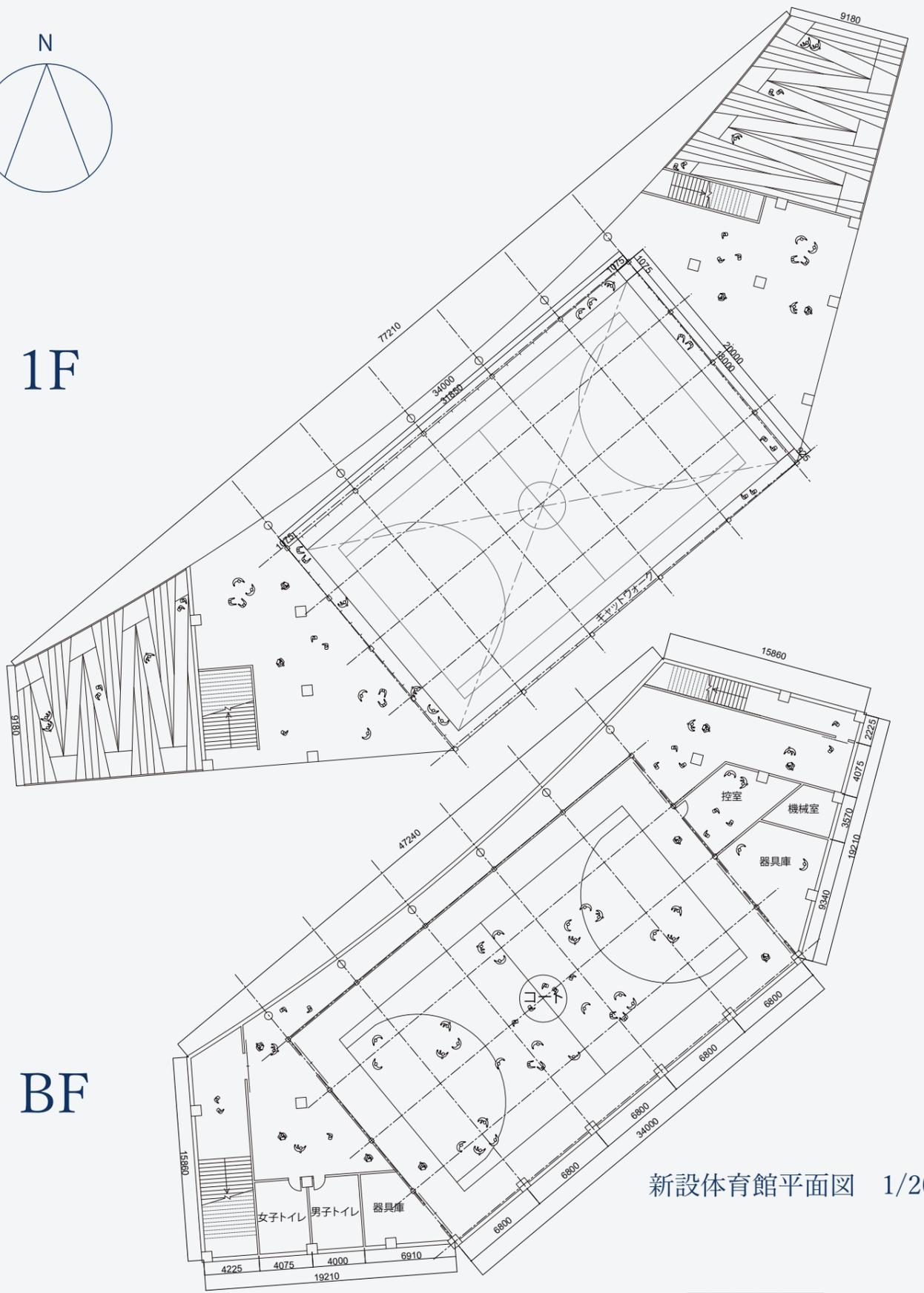
- 地域衰退の課題解決とスポーツ -

DZ21212 田振太陽

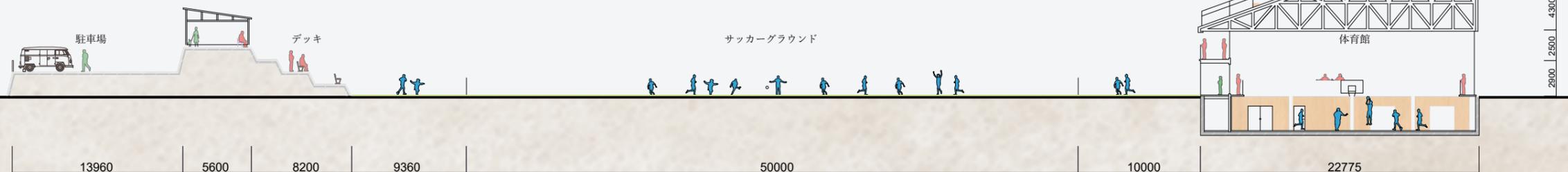
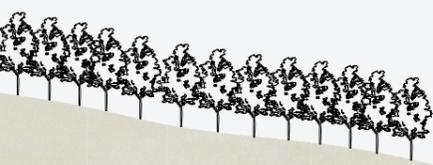


コンセプト

1. スポーツを「**する・応援する・眺める**」3つの立場の人たちが同じ時間と空間を共有する
→スポーツに対する関心度の異なる人たちが物理的・心理的に距離を縮める
2. まちに開き、目的によらず地域住民が訪れる**日常的な居場所**とする。
→地域住民が繰り返しこの場を利用するなかで、スポーツを通じ形成がなされ、地域活性化につながっていく



新設体育館平面図 1/200



敷地断面図 1/200